

永田町新潮流 平沢勝栄

# 俺がやらねば



自民党と民進党の最大の違いは、間違いなく国家観にあるといえるだろう。

民進党の前身の民主党は、立党時の基本政策の中で永住外国人への地方参政権付与をうたった。その付与を進める議員連盟の会長に就任したが、岡田克也前民進党代表だった。

憲法に対する考え方も民進党内はバラバラだ。1999年に国旗・国歌法案が採決された時も民進党内は賛否両論で真っ二つに割れた。ほぼ半数が反対に回ったのである。この法案のTV討論に出た時、民主党議員の発言に私は耳を疑った。その議員は「国

りだろう。

こうした党の体質を反映してか、今回の蓮舫代表の重国籍(二重国籍)問題は、民進党内ではほとんど問題になっていない。岡田氏も、重国籍反対は「多様な価値観を認めるといふ、わが党の目指す方向性とは全く異なる」などと発言している。一部マスコミも「蓮舫氏叩きは排外主義、

反していても、重国籍は問題ない」といいたいのだろうか。もしそうならば、まず国籍法や外務公務員法の改正を主張するのが筋ではないか。蓮舫氏は野党第一党の代表である。将来首相になる可能性だってあるのだ。

があるから争いや戦争が起こる。その国の象徴が国旗・国歌だ。それをなくせば国という垣根が取り除かれ、平和な世界が実現する」などと強調

も「蓮舫氏叩きは排外主義、

今回の問題で、国民は蓮舫氏を強く批判していない。親日国・台湾との重国籍だったからでないか。しかし、朝鮮籍や中国籍であったとしても問題の本質は全く同じである。その場合でも国民は、重国籍は問題ないとするだろうか。

## 民進党は国家解体を志向する政党なのか

したのである。

先日の産経新聞で阿比留瑠比記者は「国を否定、軽視し、市民と対立的にとらえる発想、思想が現在の民進党にも脈々と流れている。民主党は国家解体を志向する政党だった」と言っていた。その通

民族主義」などと言って、蓮舫氏援護に必死である。しかし、日本の国籍法は罰則こそないが、国民の重国籍を認めていない。そして、重国籍の者は外務公務員法で外務省に勤務することはできない。岡田氏らは「たとえ法に

民進党の中には、この問題は国家の本質に関わる、極めて深刻な問題と考えている議員もいる。こうした危機感を持つ良識派議員が、少数とはいえ、民進党内に存在する」とはせめてもの救いといえる。(自民党広報本部長)